

「漢字博士」で四つの力を身につける

新しい指導を考える会

1 はじめに

「漢字博士」は、一般的に行われている教師主導の漢字指導ではなく、子どもたちが主体となって行う活動です。漢字を発表練習のツールとして利用したり、聞く素材として扱ったりすることで、漢字を読んだり書いたりする力（漢字力）はもとより、情報を操作する力、プレゼンテーション力、聞く力の四つの力を身につけることができます。

2 「漢字博士」の実践

（1）割当てと日程を決める

学年配当漢字の一覧表を作り、漢字を機械的に児童に割り振ると同時に、発表する日程も伝えます。誤答率が高いものを中心に行えば、漢字数も少なく、子どもの負担も軽減できます。力がついてくるのが実感できるようにするのは三巡目くらいからなので、無理なく継続できるようにすることが大切です。

（2）情報を収集する

教科書や辞書、漢字ドリルなどの参考資料を使って、発表に必要な情報を収集する方法を伝えます。できれば、最初はいっしょにやってみて方がよいでしょう。

ここで、必要な情報として取り上げたものは、漢字、読み方（音・訓）、部首、画数、筆順、成り立ち、書くときの注意、熟語、教科書の用例などです。

（3）発表資料を作る

集めた情報をもとに、発表資料を作ります。初めのころは黒板に書くようにしていましたが、効率が悪いので、いつの間にか、子どもが資料を何枚かの紙に書いて持ってくるようになりました。そのうちに、模造紙全紙1/2の大きさのものにまとめてくるようになりました。この活動は、発表日程に合わせて、各自が家庭学習の中で行うようにします。

（4）発表する、聞き取りながらまとめる

発表者は、調べてきたことを学級みんなの前で話します。その間、それ以外の子どもたちは、内容を聞き取りながら作業

（5）評価する

発表でどんなところがよかったか、次はどんな工夫をすればよいかを確認し、評価します。このとき、子どもたち同士だけでなく、教師による評価も行うようにします。

また、聞き取った内容を書いた用紙を発表者に渡し、添削し評価の言葉を書き入れて戻すように指示します。曖昧に説明したことは曖昧に表記され、発音が悪かったものは誤記されているので、自分が発表したことが、友達にどのように受け止められたのかがわかります。ここで、自己の振り返りがなされます。

しかし、この活動でなにより大切なのは、自分が調べたものを友達が聞き取って、書いてくれたという充実感です。このことが、お互いを高め合う原動力となるのです。

3 おわりに

現在、二年間継続してこの活動に取り組んでいます。辞書がスムーズに使えるようになったり、要点をうまくまとめて話せるようになったりするなど、子どもたちが少しずつ変容しているのを感じます。

漢字を一つのツールとして扱う発想から、教材の開発を試みることで、今までの漢字指導には見られなかったさまざまな展開が期待できると思います。



特集

これからの漢字指導を考える

— その魅力と可能性 —

漢字		読み方		成り立ち		使い方	
6画		11画		8画		10画	
訓読み		音読み		訓読み		音読み	
一		ウ		ヨリ		ホウ	
うかん		うかん		うかん		うかん	
一		ウ		ヨリ		ホウ	
うかん		うかん		うかん		うかん	
一		ウ		ヨリ		ホウ	
うかん		うかん		うかん		うかん	

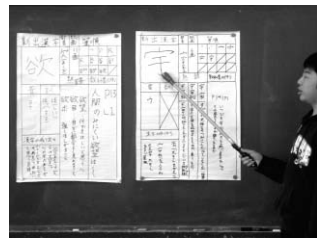
【聞き取り用の作業用紙】

発表者が内容を確認したあと、教師に提出することになっている。

用紙に書き込んだり、筆順をいっしょに空書きしたりしていくので、自然と「声が小さくて聞こえないので、大きな声でもう一度言ってほしい」「速くて書き取れないので、ゆっくり話してほしい」「文字が見えにくいので黒板に大きく書いてほしい。」など、プレゼンテーションに関する要求が出てきます。

回を重ねるごとに、発表者は、友達の上手なやり方を見ながら、声の大きさや文字の見やすさ、説明のわかりやすさなどに気をつけるようになります。プレゼンテーション力が身につけてきます。聞き手の側も正確に聞き取り、手際よく書き取れるようになります。また、自分の知りた情報を質問し、主体的に聞くようになる。

この活動は、慣れてくると一文字当たり十五分程度で行うことができます。



【発表する児童】